

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493400202	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	(株)エイジサービス			
事業所名	グループホームせや別荘			
所在地	(246-0035) 横浜市瀬谷区下瀬谷2-25-16			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月27日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「家庭的でのんびり落ち着いた、笑顔あふれるホーム」を目標指針に入居者の思いに寄り添い、その人らしさを大切にしています。コロナ禍でも、感染対策を十分に取ながらできる事は何か、入居者の思いや希望を尊重した支援を心がけています。窓からは南台公園の緑が広がり、自然豊かな立地に面した別荘風の建物です。毎日の散歩は四季を感じるとともに健康維持につながっております。天気が良ければ屋外のデッキスペースや花壇前を利用し、ランチやおやつを楽しみながら食欲も増します。日々の生活の中に少しでも笑顔になれるスパイスを取り入れ、心安らぐ環境づくりをこころがけています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月22日	評価機関 評価決定日	令和5年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、相鉄線「瀬谷」駅から徒歩18分、または相鉄線「三ツ境」駅北口から 旭28相鉄バスで「椰の木石碑前」下車、徒歩3分ほどの緑豊かな住宅地の中にあります。近隣には自然豊かな森林公園があり別荘風なたたずまいの建物です。法人は横浜に4ヶ所、東京に1ヶ所のグループホームを運営しています。

<優れている点>
利用者の健康管理に努め、入居者は、ほぼ毎日自身の体調に合わせて散歩を楽しんでいます。夏季7月からは早番の職員が7:30に出勤し少人数で数回に分かれて散歩に出かけています。10月は散歩強化月間です。散歩は車いすの人も実施しています。散歩に出られない日は日光浴に出ています。また、手作りの食事にこだわっています。リビングには、調理された食事の匂いが漂い、温かい家庭の味を職員が交代で、毎食調理しています。介護職経験の長い職員が多く、介護専門知識・技能を学び介護福祉士資格を取得する職場風土があります。多くの職員が資格取得してケアに取り組んでいます。

<工夫点>
入居者だよりは、職員全員が交代して家族宛てに毎月作成しています。毎回違う職員が文章を書き、複数の目で見た入居者の様子が伝わるように工夫しています。入居者の好みなどを職員が共有できるように「好きなものシート」を作成しています。日々の様子から気付いたことを職員が記入して、生活の支援に繋げています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームせや別荘
ユニット名	1階 つる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の各所に掲示しており、スタッフは常に確認することができます。法人理念とは別に、より具体的で誰もが取り組める内容です。職員が共有し実践できるよう努めています。	「家庭的で、のんびり落ち着いた、笑顔あふれるホームを目指します」をホームの目標方針として掲げ、管理者と職員は、その方針を共有して実践につなげています。方針は玄関やスタッフルーム等に掲示され、入居者がゆったり、その人らしく暮らす支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、できる限りの年間行事に参加させていただいています。毎日の散歩では近隣の方と気軽に挨拶・会話をかわしています。	コロナ禍で地域の行事は殆ど中止となっていますが、ホームは独自に近くの公園の清掃活動を行っています。ハロウィンでは仮装した学童保育の子どもたちが来訪し窓越しにお菓子をプレゼントしました。自治会に加入していますが、日頃交流の場がなく、課題としています。	近隣住民との交流が期待されます。日頃の公園での会話や自治会役員との面談・情報交換、また専門知識を活かした認知症の啓蒙活動など、地域の高齢者世代への多彩な交流・支援が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で運営推進会議はないが、活動報告や事故報告等の書面は自治会にもお送りし、情報提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	令和4年度もコロナ禍で運営推進会議は書面開催のみとしています。ご家族や地域からのご意見ご要望も記載してサービス向上に役立てています。	コロナ禍のため、隔月書面会議で実施しています。自治会長や区役所職員、地域包括支援センター職員、家族が参加し、活動報告等を実施しています。家族からはコロナ禍での面会の進め方等の意見をもらっています。提案で、職員の顔写真と名前を掲示するようにしました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	通常、地域密着型サービス連絡会や運営推進会議にて情報を共有していましたが、現在はコロナ感染予防の為に中止しています。必要な事項はメールにて行っています。	コロナ禍での関連情報は神奈川県や横浜市、瀬谷区からメールで都度入手しています。感染予防対策は行政の指示を守り、アドバイスを活かして対策しています。瀬谷区高齢支援課職員とは相談や報告を電話でしています。瀬谷区主催の研修は、リモートで受講しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所ではユニット会議にて内部研修を実施し、職員に周知しています。玄関、フロアーの出入り口の施錠に関しては、事業所内外の環境状況を鑑み、ご家族に説明し了解を得ています。また、入居者に応じて行動を抑制しないケアに努めています。	身体拘束のない支援に努めています。交通量のある道路沿いのため、玄関は施錠していますが、入居者の願望に応じて都度外出し戻ります。夜勤担当者の働き方にも注意し管理者が気づいた都度指導しています。身体拘束適正化委員会はユニット会議で管理者・ケアマネジャー・リーダーが参加し隔月実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所ではチェックシートを活用し、内部研修を実施しています。身体拘束・虐待防止委員会を発足し、不適切なケアが行われていないか例をあげて職員間で話し合いができる環境を作り、お互いに気付きあえる関係性に努めています。	身体拘束適正化委員会と共に、虐待防止委員会を隔月実施しています。職員は「身体拘束・虐待チェックリスト」により日頃の行動を振り返り、ユニット会議で毎月話し合い理解度を深めています。入居者のあざや打痕跡はどんな細かいものであっても記録しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は外部研修などの参加が困難であるため、関連した内容を調べ、その内容をユニット会議で説明し、職員が理解できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に見学と面談を行っていただきパンフレット等のご説明、聞き取りや細やかな説明をします。契約の際は代表者、ケアマネジャーが十分な説明をさせていただき、了承・納得していただいた上で契約を交わさせていただきます。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置していますが、なんでもお話し頂ける雰囲気作りに留意しており、ご家族から直接意見や要望をお聞きする機会も多いです。意見や要望は申し送り周知し反映できるよう努めています。	家族からは入居者との面会に関する意見要望が寄せられています。ホームではコロナの状況に応じて面会方法を変えています。直接会える時期もありましたが、現在はガラス越しの面会を実施しています。外食が出来ない状況下、入居者からは寿司等のリクエスト等があり対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	タイムカード横に職員用意見箱を設置していますが、日常的にも職員の意見を直接聞けるよう声をかけています。意見が上がった際はホーム長が取りまとめ、代表者に伝えることで事業にも反映されています。	毎月、ユニット会議で職員と話し合っています。会議では入居者を楽しませる企画等の話し合いも実施しています。職員からは、外食が出来ない環境下、ホームの庭での食事会でおでんやお弁当を食べるアイデアが出され実施して入居者を楽しませています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員がやりがいを持ってスキルアップできるよう、各種受験費用の補助金を負担しています。	家庭的・笑顔を方針として、明るく職員同士が話しやすい職場環境が作られています。毎月の残業時間削減に向け、勤務時間の30分シフト（30分早く出勤・遅く出勤）等、フレキシブルな勤務時間制を導入実施し、残業は平均2、3時間に削減されています。	職場環境のICT化に課題があります。リモート会議や研修参加ができません。各種資料も手書きが多く、ホーム全体の環境整備が期待されます。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を受けた職員による研修内容を他の職員へ周知するため、内部研修を設けています。また、介護のスキルアップのため、介助の方法を職員同士が意見交換し、助言・実践できるような情報の共有に努めています。	長く働いている職員が多く、且つ殆どの常勤者が介護福祉士資格を取得しています。法人の資格取得補助制度を利用し、職員が自ら専門知識・技能を高めようとする風土が作られています。外部研修を受講した職員による内部研修の実施により職員のスキルアップを支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍で他施設との交流はできませんが、医師や看護師、また往診時に同席する薬剤師との交流により、入居者の情報交換で勉強できる機会があり、介護に反映し質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシートや基本情報、ご家族からのお話を基に、本人の生活歴を大切にし、小さな事にも耳を傾け安心して生活出来る様なケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族や本人の要望など傾聴することを心がけ、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に本人、家族双方の思いを聞き双方の関係性を見極めておきます。入居後はまず入居者が安心して生活できることが最優先であるので家族の協力が不可欠であることを話し協力を得て対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事やレクリエーションなど、できる事は参加して頂けるよう考えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ過で面会も制限されている中、面談時に対策を講じながら楽しい時間を過ごしていただけるよう支援しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩などでご近所の方に出会った場合は挨拶をしてコミュニケーションが取れるよう支援に努めています。現在はコロナ禍によりコミュニケーションを取ることが困難になってきています。	面会の出来ない日々が続き、手紙の返信や手作りはがきの支援をしています。年賀状は本人の一言を添えて送っています。毎月の「入居者だより」を職員全員が交代で各入居者をそれぞれ担当して、生活の様子を観察し自分の言葉で家族に報告し好評です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症の軽度、重度の方々は、なかなか深い交流は難しいですが、職員が間に入り橋渡しをしたり、入居者同士が声を掛け合っているときは見守りの支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	基本的に契約が終了した事で、次の転居先にその人となり良くわかって頂けるサマリーをお渡しします。何かあれば、いつでもお聞きくださるようにお伝えし終了にします。ご家族からの相談は立場を弁えた範囲での支援を行います。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で希望を言える方はその希望、意向に出来るだけ答えられるようにしています。難しそうなことは家族とも相談し希望に近づけられるか検討します。希望を言うことが困難な方は家族と相談し、本人の居心地の良きようにしていきます。	入居前の面会時に体調や希望を確認しています。入居後は入居者の様子を観察し、散歩や入浴時などに会話を行うことでコミュニケーションをとっています。ユニット会議などで情報を共有し、家事の手伝いや歌を歌うことなどで日々のやりがいを支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族にいただいた個人情報やご家族、ご本人が話す入居前の生活ぶりをお聞きし、把握に努めます。以前問題になっていた部分が、ホームで改善されているかも把握します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	3ヶ月に1度のモニタリングと、6ヶ月に1度の出来る事シートで有する力を見ている他、毎日の個人記録、申し送りで見守り変化を把握します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月毎にプランをモニタリングします。ユニット会議は毎月行うので、入居者の小さな変化についてもユニット会議で話し合います。申し送りノートでもケアの変化が必要ならば伝えていきます。大きな変化の場合はショートカンファを行いプランを変更します。	ケアプランは6ヶ月を基本に作成していますが状態に応じて見直しを行います。「出来ることシート」を使用して3ヶ月ごとにモニタリングを行い、ユニット会議で見直しを行います。家族には来訪したときなどにプランに関する希望を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り、口頭、記録などで情報の共有をしています。ショートカンファでケアの変更が必要か検討します。変更があれば記録、申し送りで伝えます。大きな変化にはプランの変更はご家族にも連絡し、希望を聞きながら変更します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人々に合った対応を行っています。出来るだけニーズに答えては行きますが、実行してみて難しいと判断する場合もあるので、その時は家族と相談して他のサービスを考えて行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年もコロナ禍の為、行事の中止も多くなっています。その中で近隣公園での散歩が毎日の日課になっています。ADLを保ち、季節を感じ、近隣住民との挨拶、会話など楽しい時間になっています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科、歯科、眼科、皮膚科、精神科の診察がホームで受けられますが、今まで受診された病院のも通院も可能です。多くはホームでの受診に切り替えを希望されますが、受診内容によっては外部受診の継続をこちらからお願いすることもあります。	内科は月に2回、眼科は2ヶ月に1回、訪問看護師は週に1回の来訪があります。基本的には提携医の受診をお願いしていますが、継続して受診したい病院がある場合は希望に応じています。外来受診や緊急時は職員が同行したり、家族と連携して対応を行います。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護で入居者一人ひとりの健康管理を行っています。日頃の変化や相談事を看護記録用紙に職員が記入し、記録を元に個別にチェックを行っています。便の状態や巻き爪を相談し適切に処置してもらえる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い普段の様子や現状を医療機関に説明します。入院中にも担当看護師に状況を伺い、退院前には本人の状況を確認し、カンファレンスをお願いしています。相談員と直接連絡をとり、相談できる関係づくりをしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの同意書をご家族からいただきますが、実際に看取りの時期が近くなった際は、ご家族・医師・看護師・施設職員の4者でその後の方針を話し合い、4者が納得のいく形で看取りに入ります。	入居時に重度化した場合の説明を行っていますが、状況に応じて家族と話し合いを行います。看取りの実績があり、職員に対して看取りに関する勉強会を行っています。医師や看護師と24時間の連携体制がとれており、緊急時に対応することができます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生に備えたマニュアル、緊急連絡網は目に付くところに掲示し、職員に緊急時の対応についてを周知しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、火災、地震を想定し避難訓練を実施しています。消火器の取り扱いや消化方法などマニュアルを確認し、過去の訓練を振り返り次に繋げています。	年に2回の防災訓練を実施しており、管理者は消防署の消火訓練に参加しています。コロナ前は地域の防災訓練に参加していましたが現在は中止となっています。屋内に食品や防災頭巾などの防災備蓄品を保管し、屋外の倉庫には飲料水などを備え管理をしています。	日頃より自治会役員や近隣住民との交流を通じて、災害時の協力関係を築かれることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の気持ちを考え、さりげない言葉がけや対応に配慮しています。	入居者の呼び名は「さん」付けが基本ですが、本人の希望に応じて愛称などと呼ぶことがあります。入浴やトイレの介助時には羞恥心に配慮するよう、繰り返し指導しています。不適切な事例があればその都度指摘し、再発防止のため会議などで共有しています。	個人情報の記載された書類を鍵のかかる棚などに収納し、必要時以外閲覧できないように管理されることが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉がけや会話の中で、本人の思い、希望を表情や反応で把握し、自己決定できるよう分かりやすい言葉がけを心がけています。	/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを大切にし、希望があればそれにそって1日を過ごしていただいています。	/	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回訪問美容を利用しています。男性の入居者様には髭剃りの声掛けをしてその人らしい身だしなみができるように支援しています。	/	
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日会など行事の際には特別メニューにて楽しんでいただいています。食前後は配膳下膳をお願いしています。	毎日配達される食材を職員が調理して食事を提供しています。入居者は盛り付けや食器洗いなどを手伝っています。季節を感じる焼きいもやトウモロコシなどを近隣の農家から購入したり、入居者の希望でファストフードや寿司を購入して楽しむこともあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入浴後、運動後、散歩から帰った後など水分は欠かさず提供し、食事量も含め1日を通じてバランス良く確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの口腔状態を把握し、声かけを行っています。磨き方をアドバイスしたり、介助が必要な方には付き添ってケアをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄での失敗がないように排泄パターンや体調に注意し目配りをしています。声掛けにも配慮し、排泄の自立に向けた支援を行っています。	排泄パターンを把握するために排泄記録を作成しています。食事前や散歩前などの際に誘導を行っています。散歩や体操で体を動かしたり、いも類や乳製品を摂取して自然な排泄を促しています。入居者の希望でリハビリパンツなどを利用することがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝食時の牛乳提供やおやつ時にヨーグルトなど提供したり、散歩や運動など個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	その日の体調を確認し声掛け時に希望を優先するようにしています。また、談話などして入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。	週に2回の入浴が基本ですが、状況に応じて入居者が満足のできる入浴を支援しています。職員は安全のために介助や見守りを行っています。拒否をする場合は時間や声掛けの職員を変えるなどしています。入浴剤を入れるなど入浴を楽しめる工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時や休息時など室内温度、環境を考慮し、安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルをもとに職員2人で対応し、氏名、日付、いつ飲む薬かなど声を出して入居者と確認しながら服薬をしていただいている。服薬後の確認も徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりができることを考慮しお手伝いをお願いしています。それにより日々の生活に張りが出るよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の状況、状態に合わせて近くの公園まで散歩に出ています。そこで季節の花々を鑑賞し楽しんでいただいています。感染症により外出レクは自粛しています。	コロナ禍で外出は控えていますが、近隣の公園への散歩を行っており、早朝散歩や日光浴などで外気浴の工夫をしています。イチヨウやヒマワリなど鑑賞できるところへはドライブで車窓から楽しんでます。買い物は職員が代行したり家族にお願いしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍の為、外出が難しく買い物には出かけていないが、所持を希望される入居者様にはご家族様同意の上、少額ですが財布をお持ち込みいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	季節に応じてはがきを作成し、一言添えて手紙を送り、ご家族とのつながりを支援しています。また、入居者の中には携帯電話を持ち込まれておりご自身でご家族と自由に連絡を取って頂いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや廊下には入居者様と一緒に季節に合った飾りを月替わりで作成したり、季節の花などを飾るなどして居心地の良い空間づくりをしています。	廊下やリビングは広く明るく、壁には四季を感じる作品などを飾っています。入居者が楽しめる好みの写真集や料理本などを本棚に用意しています。簡単に上下する洗面台は車いすの高さに対応できるように工夫しています。定期的に掃除担当者が来訪して整備に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下には椅子が置かれており、個々でも、また入居者同士でゆっくり話せる空間を作っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談しながら、ご自宅で使っていたなじみの家具やお好みのものを置いて入居者の居心地の良い環境を作っています。	居室はエアコン、ベッド、寝具、クローゼット、防炎カーテン、照明が備え付けです。入居者は写真や仏壇、ぬいぐるみ、テーブルなど使い慣れたものを持ち込み、入居前に近い生活を送れるようにしています。居室担当制で職員が衣替えなどを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりに合わせ、できることを把握し声をかけています。自信をもってできる役割として自主的に参加できるよう支援しています。		

事業所名	グループホームせや別荘
ユニット名	2階 かめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の各所に掲示しており、スタッフは常に確認することができます。法人理念とは別に、より具体的で誰もが取り組める内容です。職員が共有し実践できるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、できる限りの年間行事に参加させていただいています。毎日の散歩では近隣の方と気軽に挨拶・会話をかわしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で運営推進会議はないが、活動報告や事故報告等の書面は自治会にもお送りし、情報提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	令和4年度もコロナ禍で運営推進会議は書面開催のみとしています。ご家族や地域からのご意見ご要望も記載してサービス向上に役立てています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	通常、地域密着型サービス連絡会や運営推進会議にて情報を共有していましたが、現在はコロナ感染予防の為に中止しています。必要な事項はメールにて行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所ではユニット会議にて内部研修を実施し、職員に周知しています。玄関、フロアの出入り口の施錠に関しては、事業所内外の環境状況を鑑み、ご家族に説明し了解を得ています。また、入居者に応じて行動を抑制しないケアに努めています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所ではチェックシートを活用し、内部研修を実施しています。身体拘束・虐待防止委員会を発足し、不適切なケアが行われていないか例をあげて職員間で話し合いができる環境を作り、お互いに気付きあえる関係性に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は外部研修などの参加が困難であるため、関連した内容を調べ、その内容をユニット会議で説明し、職員が理解できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に見学と面談を行っていただきパンフレット等のご説明、聞き取りや細やかな説明をします。契約の際は代表者、ケアマネジャーが十分な説明をさせていただき、了承・納得していただいた上で契約を交わさせていただきます。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置していますが、なんでも話していただける雰囲気作りに留意しており、ご家族から直接意見や要望をお聞きする機会も多いです。意見や要望は申し送り周知し反映できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	タイムカード横に職員用意見箱を設置していますが、日常的にも職員の意見を直接聞けるよう声をかけています。意見が上がった際はホーム長が取りまとめ、代表者に伝えることで事業にも反映されています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員がやりがいを持ってスキルアップできるよう、各種受験費用の補助金を負担しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を受けた職員による研修内容を他の職員へ周知するため、内部研修を設けています。また、介護のスキルアップのため、介助の方法を職員同士が意見交換し、助言・実践できるよう情報の共有に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍で他施設との交流はできませんが、医師や看護師、また往診時に同席する薬剤師との交流により、入居者の情報交換で勉強できる機会があり、介護に反映し質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシートや基本情報、ご家族からのお話を基に、本人の生活歴を大切にし、小さな事にも耳を傾け安心して生活出来る様なケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族や本人の要望など傾聴することを心がけ、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居面談時、必要とされている事、困っている事をヒアリングしホームでできるサービスへつなげていく様、努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者一人ひとり出来る事を把握し、日々の生活の中でご自身で身の回りのことができるような環境づくりに努め支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の家族への思いと、家族の入居者に対する思いの理解に努め、絆をつなげていけるよう、面会だけではなく電話や手紙などで関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や電話、面会などなじみの関係性が続けられるよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、自然になじめるような環境づくりに努め入居者同士支えあえる様見守り支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後もケアのフォローや相談、支援に応じて対応できるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアから本人の意向や思いをくみ取り、ご家族からもヒアリングを行ったりしています。困難な場合も本人の性格や嗜好から希望や意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族に個人シートを記入していただき情報を得たり本人のお話を傾聴し、生活歴や暮らしぶりの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプラン作成時、出来ることシートを使い、現状把握に努めています。日々の生活ではバイタル測定を定時に行い身体・精神的に変化がないかを職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3か月毎モニタリングをホーム長、ケアマネージャー、介護職員と行っています。本人の意向を元にご家族や医師、看護師の意見も反映し、介護計画に繋げていくよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、職員が関わりを持った際の様子や気づき、変化などを夜間、日中の職員が共有できるように記録しています。また、申し送りノートも活用し、周知に努め、その内容を介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方の現状に合わせてながら本人やご家族のニーズに柔軟に応じられる様心がけています。ニーズによってはご家族様にも協力していただきケアプランに反映するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の公園や川沿いの散歩を行う際、近隣の方とあいさつを交わしコミュニケーションを取っています。また、公園の落ち葉拾いなど入居者の提案を実行したり学童との交流や地域のお祭りへの参加も豊かな暮らしを楽しめる様支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・皮膚科・眼科・歯科の往診がありますが本人ご家族の希望があれば入居後も以前のかかりつけ医への受診を継続できる様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護で入居者一人ひとりの健康管理を行っています。日頃の変化や相談事を看護記録用紙に職員が記入し、記録を元に個別にチェックを行っています。便の状態や巻き爪を相談し適切に処置してもらえる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い普段の様子や現状を医療機関に説明します。入院中にも担当看護師に状況を伺い、退院前には本人の状況を確認し、カンファレンスをお願いしています。相談員と直接連絡をとり、相談できる関係づくりをしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの同意書をご家族からいただきますが、実際に看取りの時期が近くなった際は、ご家族・医師・看護師・施設職員の4者でその後の方針を話し合い、4者が納得のいく形で看取りに入ります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応としてフローチャートの活用、勉強会を実施し、冷静に行動できるように努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、火災、地震を想定し避難訓練を実施しています。消火器の取り扱いや消化方法などマニュアルを確認し、過去の訓練を振り返り次に繋げています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	それぞれの人格や性格、認知症上の違いを理解し、周りとの関わりを考えながら声掛けをしています。一人ひとりを尊重し、できることを見つけて自信につながるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の判断ではなく、本人に意思確認をして決められるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れの中で散歩やレクリエーションの参加を自身で決めていただきます。居室で読書を楽しんだり、リビングでテレビを見たり、談話をしたり等、入居者のその日の気分を汲み取り支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回の訪問美容があり、どのような髪形が良いかお聞きしています。入浴時は着替えの準備をしていただき、季節に合った選択ができるよう支援しています。また、職員が準備する際はどちらの色にするかを入居者様を選べるような働きかけをしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材チェックやもやしの根取り、盛り付けや食器洗いなど順番に声掛けし参加していただきます。配膳・下膳もできる限りご自身で行えるよう支援しています。また、誕生日には寿司やうなぎなどお好きなものを召し上がっていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食、食事量や水分量を個人記録に記入し、職員がわかりやすいよう記録しています。お好みの硬さや嚥下に合わせ、お粥や刻み、トロミ等、臨機応変に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、順番にお声掛けし、ハミガキの習慣を持ち、補助が必要であれば職員が口腔ケアを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の記録を取り、一人ひとりの状態を職員全員が把握できるよう周知しています。排泄の間隔があいている入居者へは、声掛け、誘導を行い排泄の失敗がないよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師の指導に基づいた一人ひとりにあわせた排便コントロールを行っています。日々の体操や散歩のほかに食物繊維の多い食品を積極的に取り入れています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や様子の変化に十分配慮し入浴の声掛けを行っています。会話を交えながらリラックスして入浴していただけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりに合わせた寝具や家具の配置にも配慮しています。浮腫などの体調、睡眠のリズムに合わせて、昼寝を促したり、また日中の活動にも取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時は職員2名体制で確認を行い。本人にも名前、日付を読み上げていただき誤薬がないよう3重チェックをしています。処方箋ファイルは職員の目の届く場所に置いてあり、いつでも確認することができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりにあった得意分野や好きなことを把握し出来る事を役割としています。食事の盛り付けや食材チェック、居室の清掃など無理のないよう配慮しています。また、職員は感謝の気持ちや言葉かけを伝えるようにしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は気分転換、筋力維持も兼ね、毎日散歩や外気浴を行っています。距離や内容を本人の体調に応じて楽しんでいただけるよう支援しています。現在はコロナ禍で買い物や外食は控えている状態です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々にご家族と相談されて少額の財布をお持ちの入居者もいますが、ホームでは金銭の管理はしていません。何か購入したいものがある時はホームより立替え、ご家族にご請求することを入居時にお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電で居室にて自由にかけていただいたり、電話をかけたいとの要望があれば、あらかじめご家族様に内容をお伝えし、スムーズな対応が出来るよう支援しています。また、季節によりハガキを書いてご家族に送るレクリエーションを実施しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清掃や消毒をきちんと行い、衛生を保っています。季節に応じた飾りや手作りのカレンダーを居室内にご自身で飾ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下には椅子が点在しており、気の合った入居者同士が写真を見ながら話せる場所を提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家庭で使用していたなじみのある家具や食器を持参していただき、そのままホームでも使用しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事を自身で継続してできるよう、支援しています。またホーム内はご自身の家のように、できる限り自由に行動できるよう努めています。		

2022年度

事業所名 グループホームせや別荘

作成日： 5年 3月 24日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2.35	コロナ禍もあり、自治会等近隣の方との情報交換ができない。また、災害緊急時の協力体制が構築されていない。	自治会の中でも施設の特徴や暮らし方など理解いただき、交流を通じて災害時の協力関係が築ける。	開設11年、改めて自治会にGHの特徴や暮らしぶりがわかる回覧物を回して頂けるようお願いし、避難訓練にも声をかけてご参加いただく。	12ヶ月
2	12	Wi-Fi環境が不安定、PCが古くリモートできる環境が整っていない。面会もリモートを期待するご家族がおり、今後の課題。	リモートのできる環境整備。 職員の機器の取り扱いの向上。	PCは外部評価後、早急に入れ替えを行いました。先日オンラインでの講習を受け実施。後は本社と共に環境整備の準備に入っております。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月